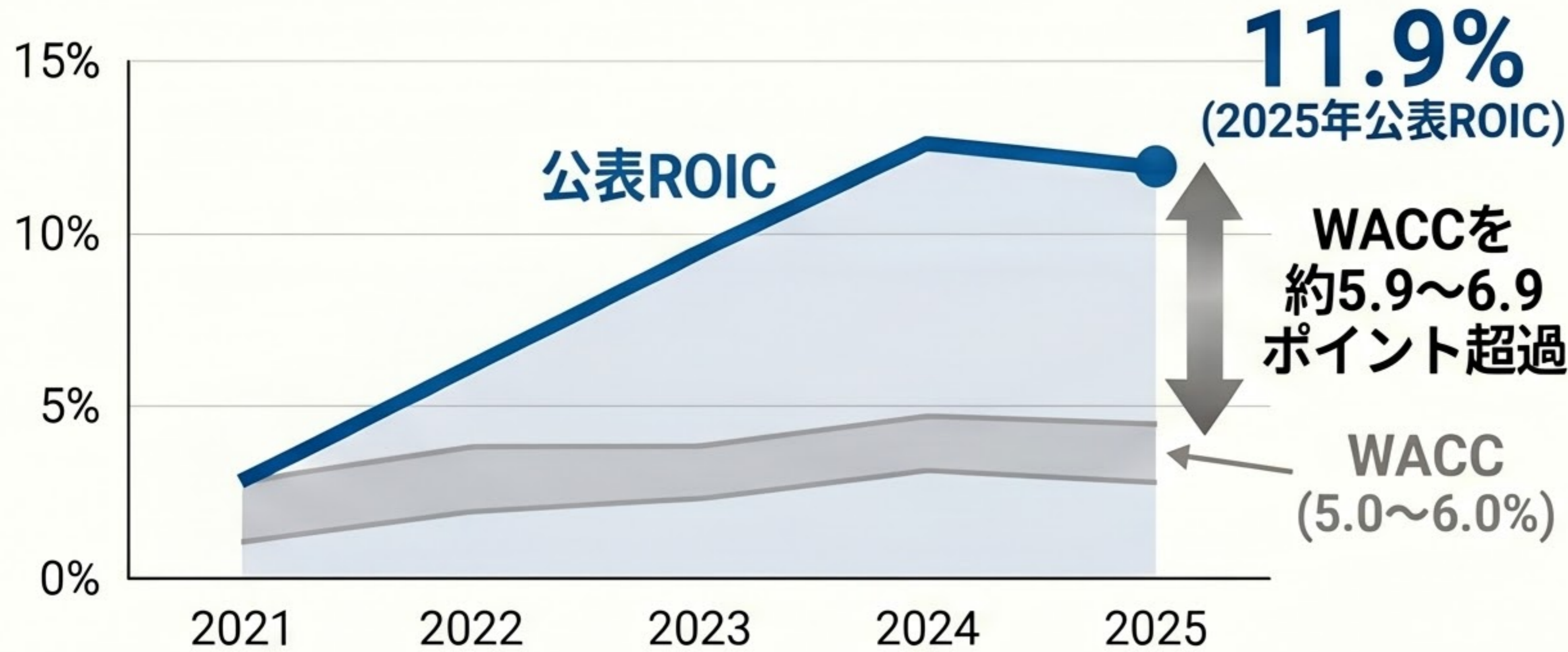


荏原製作所：知財ROICで読み解く「価値創造」の現在地

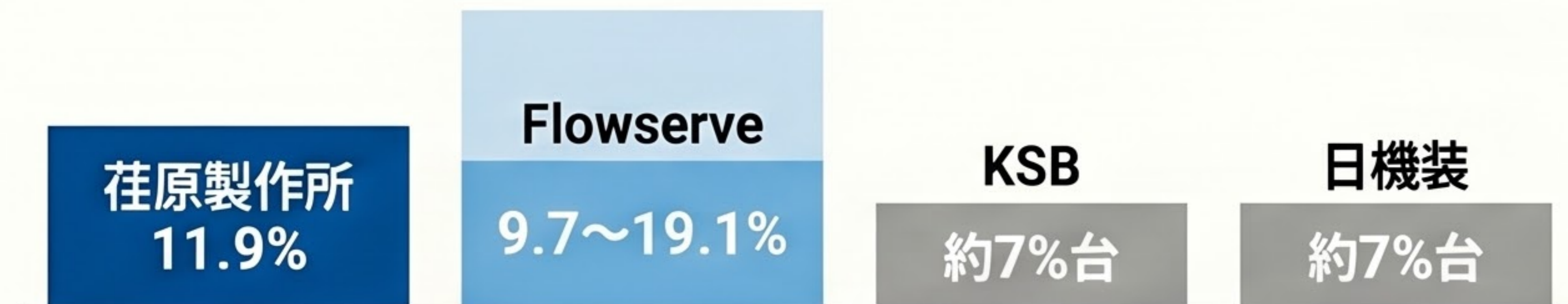
2025年12月期に11.9%の公表ROICを達成し、資本コスト（WACC 5.0～6.0%）を大幅に上回る価値創造を実現。財務データと知財ポートフォリオの統合分析により、知財資産を保守的に評価してもROIC 11%台の高水準を維持できることが示唆される。現在、蓄積した知財を「権利化・ブランド化・収益転換」結びつけ、投下資本を上回る利益成長を目指す過渡期にある。

財務パフォーマンス：資本コストを上回る価値創造



投下資本の膨張が足元の論点：利益成長は堅調だが、有利子負債増大（前年比約49%増）や運転資本の増大により資本回転率向上が課題。

同業他社ベンチマーク（ROIC比較）



業界上位グループに位置。外部開示の具体化が次なるステップ：先進的な内部管理に比べ、投資家への知財収益（ライセンス収入等）の定量的な見える化に改善の余地。

知財ROICの構造と運用の実態



無形資産の約66%がソフトウェア：社内開発やIT基盤強化が主軸。差別化要因や権利化成果の減少が弱点として指摘。法務リスク管理は安定化（リスク低減）に直結。

知財ポートフォリオと事業領域：主要特許・商標



知財資本化後も11%台を維持（コストアプローチ：11.5%，収益アプローチ：11.7%）
知財資本化後も11%台を維持（コストアプローチ：11.5%，収益アプローチ：11.7%）